



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

「探究」のすすめ

芸術科 新福 一孝

「探究」という言葉からどのようなことを思い浮かべるでしょうか。新学習指導要領では、これまでの「総合的な学習の時間」が、高校では「総合的な探究の時間」に変わります。水曜日の7時間目「総合」の時間で行っている課題研究を思い浮かべる人もいます。辞書を引くと「ものごとの意義や本質を探ったり見極めたりすること」と書いていますが、私は、「意味などを解明・理解し深く思考することを通して自分なりの考え方をもちつこと」と捉えています。

先日、過去の「文集つるまる」を読む機会がありました。その時、吹奏楽部の部長だった生徒の次のような文章が目にとまりました。（一部抜粋）

高校に入学して「発展学習」なるものに出会った。一つの文章に触れ、疑問を持ち、考え、答えを見出す。問われていることだけに答えるのではなく、自主的に学習をすることで理解を深める。そんな学習である。ときに友人と議論して一つの解釈にたどり着くことはとても面白い。自分一人だけで読んだだけでは見えていなかった。ただ読んだだけでは見えていなかった。ある文章の姿が見えてくる。（中略）高校の部活動では、コンクールの曲に、よりきちんと向き合った。曲の背景を知ることや一つの音符やフレーズの意味を考えることを、自分たちが主となって行う。今年のコンクール自由曲は「マードック」からの最後の手紙だ。（※「マードック」とは、悲劇の豪華客船タイタニックの一等航海士であり、最後まで勇敢に乗客の救助を行って命を落とした人物）曲想をもとに自分たちでマードックが家族に宛てた手紙の内容に思いを寄せ、実際に手紙を書いてみるという試みも、曲を深く理解する作業の一環になると考え、部員に提案した。人によって異なる解釈をすり合わせるようにして音楽表現を練り上げた。（中略）楽譜の読み取り方はそれぞれだから、審査員と

解釈が合わないということもある。文章を読むうえでも答えは一つではないから、発展学習も、音楽づくりも、目的は答えを出して点数をとることだけではないと思う。深めていく過程で、今まで見えなかった世界のトビラを少しずつノックすることができ、その音楽を、文章を深く知り、味わい、その世界を広げることができる。

この生徒は、教科学習や部活動で、主体的に探究し、さらに友達と関わりながら思考を深めることで自分なりの考えをもち、表現を深く味わっているのだと思います。私が担当している音楽の授業も「探究」により自分（たち）らしい表現を追求する活動です。楽譜に書いてある音符通りに演奏するのは単に「音楽の再現」です。音楽を表現するときには、一つの音符やフレーズ、和音とその進行の意味を考えたり、音楽的要素の関連、曲の構成などを分析し、付けられている強弱、速度、音楽記号が意図するもの、楽器（音色）の選択の意味などを考えたりします。歌唱は「言葉」で伝える音楽表現なので、さらに歌詞の内容や言葉の響き、なぜその言葉が使われているのか、言葉と音楽的要素の関係などを掘り下げて考えます。また、作曲者の置かれた環境（時代背景、自然、生涯など）に踏み込むことで強い思いに触れ、表現が大きく変わることもあります。当然、人によってその分析、感じ方、捉え方などは違いますが、確実に「音」の表現の仕方が変わります。その人の「心の表出」として、聴く人の心に説得力をもって訴えかけます。表現しているその瞬間には自分を感じ、生きていくことを実感しています。このような段階や理解、広い教養が必要となり、経験値も大きく影響してきますが、それらは、興味・関心をもち主体的に取り組むことで身に付いてくるように思います。

「探究」する機会や材料は私たちの身の回りにたくさんあります。「己を彫（きざ）む」高校三年間にするために、「探究」を楽しんでほしいと思います。

一日遠足が行われました

4月23日（金）、マスク着用、各自の検温、バス乗車時や施設での手指消毒、バス内の換気などコロナ対策を十分に行いながら一日遠足が実施されました。1年生は知覧町武家屋敷地区を見学した後、特攻平和会館を参観し、平和公園で親睦を深めました。2年生は、南薩少年自然の家から吹上浜公園まで散策し学級ごとに親睦を深めたり、レクリエーションをしたりしました。3年生は喜入総合体育館で生徒自らが工夫を凝らした活動を行った後、千貫平に登り決意表明を行いました。



特攻平和会館で語り部の話に聞き入る1年生

令和3年度前期生徒総会・生徒会長選挙

5月19日（水）7時間目に前期生徒会長選挙及び生徒総会が行われました。生徒会執行部は、体育館と文化館に分かれてコロナ対策を万全に行った中で開催を鑑み、三密を避けるために、当初の計画を変更し、各クラスで校内放送を通しての開催となりました。直前に計画の変更があったにも関わ

らず、選挙管理委員会と生徒会執行部は、工夫を凝らしながら、準備していた全てを無事終えることができました。生徒会長には、宮里慈恵さんが信任されました。また、生徒総会では、今回は三号議案を設定して議論することができなかつたため、意見箱で集約した生徒の意見を紹介し問題意識を高めました。



放送室から進行を行う生徒会執行部生徒

3年生の集団読書より

5月24日（月）7時間目に3年生の集団読書がありました。今回の課題図書は、遠藤周作著『海と毒薬』でした。2年生は5月31日（月）に朝井まかて著『銀の猫』、1年生は6月21日（月）にドリアン助川著『あん』を課題図書として、学級ごとに集団読書が行われます。1年生は学級の代表者が2・3年生の活動の様子を見学し、それを参考にしながら鶴丸高校に入学して初めての集団読書を行います。文献によると、本校の集団読書が現在の形（前半・国語科、後半・その他の教科）になったのは昭和48年頃であり、その数年前からすでに集団読書は行われていたという記述があるので、50年以上続いている歴史ある活動であることがわかります。また、集団読書のねらいについては、

「ホームルーム委員が、学級の生徒の感想文をもとに問題点を焦点化し、企画・運営、司会をして討議を進めていくこと」とや「自分の考えをもちたり他者の意見を聞いたりして思索を深め、高校生としての自分のあり方、生き方を考えること」と書いてあります。今も変わらず生徒自らが主体的に取り組み、自他ともに高め合っている姿を見ていると、そこに鶴丸高校の伝統を感じます。

3年生の読書感想文（「海と毒薬」）より

本当に悪いのは何か 38 R 猪俣 和奏

この本から考えさせられるのは、果たして何が悪いのか、ということであろう。「生体解剖」という言葉が含む禁忌性から、私たちはそれに関わった人々全てを悪だと決めつけてしまいがちである。だが、本を通じて見える登場人物はいたって普通の人間だ。解剖に恐怖と罪悪感を覚え、何もできなくなる勝呂。地位や名声のためなら手段を選ばない教授たち。男に捨てられ、虚しさから他人に嫉妬する看護婦。罪を犯しても罪悪感を感じないという戸田は異常者のように思えるかもしれないが、それだって、幼少期の彼への周囲の対応がそうさせたのである。このような境遇の人は他にもいるだろうし、私たちもそのようになる可能性は十分にある。普通の人間である彼らは、戸田の言うように「こんな時代のこんな医学部にいたから捕虜を解剖しただけ」なのだ。それでは、悪いのは彼らを取り巻く環境か。戦争という非常事態が彼らをそうさせたのか。先日の駿台模試の問題が頭に浮かんできた。かのナチス・ドイツの人々は「職務だから、命令だから」という理由で、自分は異常者ではないことを主張したらしい。それは単なる逃げだと思ってしまう。命令に背くという選択肢がなかったわけではあるまい。本の話に戻るが、勝呂たちにも解剖を断る機会は何度かあった。にも関わらず解剖に参加したというところは、やはり彼ら自身に非があるのだろうか。結局のところ、何が悪だったのか、私は判断しかねている。もしかすると、私も悪なんぞ存在しておらず、これが全て人間が持っている本性なのかもしれない。はたまた、もし彼らが救いの手をさしよべたならば神の存在があったら、このように出来事は起こらなかったのか。いずれにせよ、私たちは一概に彼らを勝呂たちを非難する資格なんて無いのだ。 勝呂

6月の行事予定

Table with 5 columns: 日 (Day), 曜日 (Day of Week), 行事 (Event), 校時 (School Hours), 学食 (Canteen). Rows include dates from 1st to 30th of June with various school activities.

↑ 発行時の予定です。変更があるかもしれません。